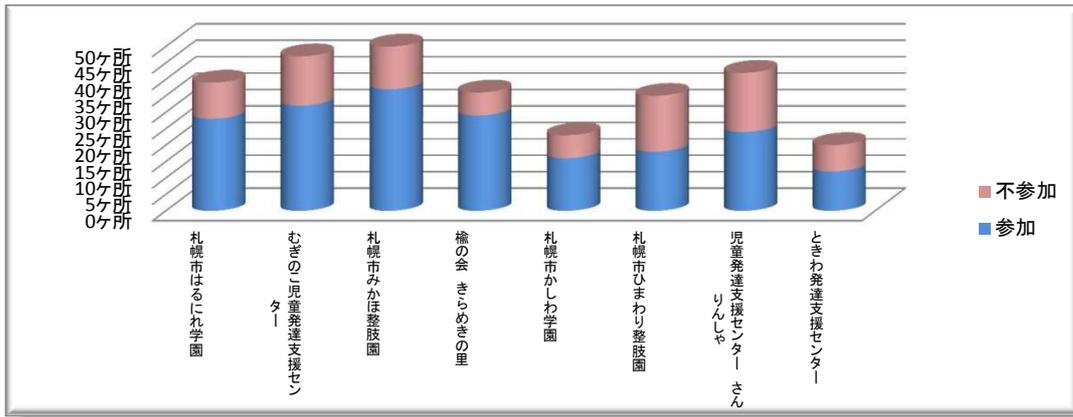


平成26年度第2回児童発達支援センター研修 集計結果

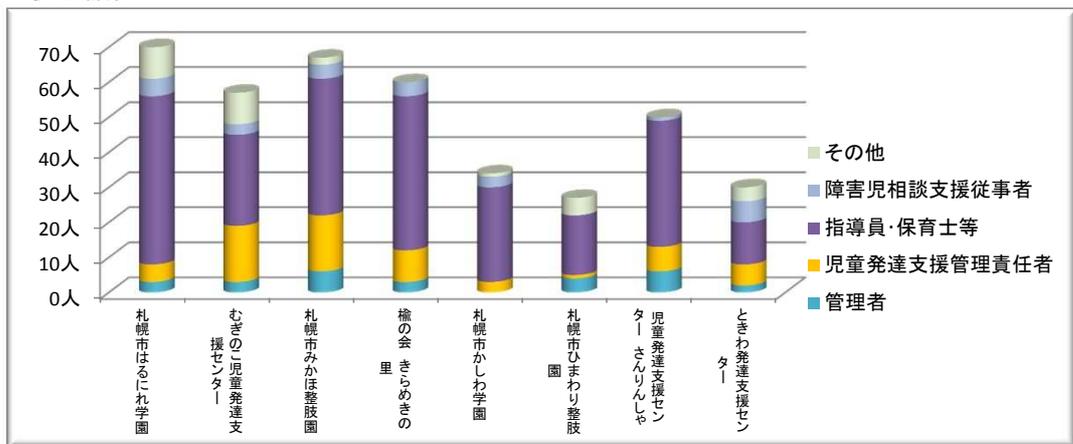
1 障害児通所支援事業所数及び参加者内訳

	対象事業所数	参加事業所数	参加割合	管理者	児童発達支援管理責任者	指導員・保育士等	障害児相談支援従事者	その他	参加者計
札幌市はるにれ学園	39ヶ所	28ヶ所	71.8%	3人	5人	48人	5人	9人	70人
むぎのこ児童発達支援センター	47ヶ所	32ヶ所	68.1%	3人	16人	26人	3人	9人	57人
札幌市みかほ整肢園	50ヶ所	37ヶ所	74.0%	6人	16人	39人	4人	2人	67人
榆の会 きらめきの里	36ヶ所	29ヶ所	80.6%	3人	9人	44人	4人	0人	60人
札幌市かしわ学園	23ヶ所	16ヶ所	69.6%	0人	3人	27人	3人	1人	34人
札幌市ひまわり整肢園	35ヶ所	18ヶ所	51.4%	4人	1人	17人	0人	5人	27人
児童発達支援センターさんりんしゃ	42ヶ所	24ヶ所	57.1%	6人	7人	36人	1人	0人	50人
ときわ発達支援センター	20ヶ所	12ヶ所	60.0%	2人	6人	12人	6人	4人	30人
計	292ヶ所	196ヶ所	—	27人	63人	249人	26人	30人	395人
		平均	66.6%	6.8%	15.9%	63.0%	6.6%	7.6%	

《参加事業所数》



《参加者数》



2 グループワーク

(1) グループ編成数等

	グループ数	1グループ平均	他事業所ファシリテーター
札幌市はるにれ学園	8	8.8人	児童デイサービスセンター わんぱくキッズ、児童デイサービス べるにこっと、児童発達支援さぼーと らいと、子ども園 虹
むぎのこ児童発達支援センター	6	9.5人	ちゃちゃペリー
札幌市みかほ整肢園	8	8.4人	ゲーチャキパー、家庭福祉相談室(2名) めばえ、きらり、エンデバー、ソレイユ、おがる
榆の会 きらめきの里	9	6.7人	プレイルーム榆の会、榆の会ルビーノ、発達相談きらめきの里
札幌市かしわ学園	5	6.8人	かわせみの森中の島キッズ、児童発達支援 りとるみっけ、児童発達支援みっけキッズ
札幌市ひまわり整肢園	5	5.4人	
児童発達支援センターさんりんしゃ	7	7.1人	ほっと、ちいさなおうち、音の森、アズーリ星置
ときわ発達支援センター	6	5.0人	
平均	6.8	7.2人	

(2) 内容

子どもへの発達支援の状況と感想。

3 グループワークの感想・意見

- ・各事業所によって特徴がある。そこを互いに活かす必要があると思う。
- ・保護者、学校、他の事業所との繋がりを密にしていくことが大切であると思う（事業所が複数の場合、月一回の合同会議、適時電話連絡をしている。事業所間のコーディネイト役として相談室も重要）。
- ・相談支援事業所として、ニーズに応じた支援、事業所の紹介が必要なため、それぞれの具体的な情報が欲しい。また、情報交換できる場が欲しい。
- ・家庭、学校、事業所で見せる姿がそれぞれ違うため、どの発達段階なのか、今何を大切にすべきなのかを見極めなくてはならない。
- ・学習支援のための学習室を設けるのが困難。困難ながらも工夫している事業所と意見交換ができた。
- ・他事業所で行われる活動や特色を聞いてよかった。
- ・様々な経験年数の方々の話が聞きたい。
- ・経験年数が同じくらいの方のグループ構成は同じ悩みを持っていることがわかってよかった。
- ・個々の事業所の紹介が多く、話の接点がなかなかつかめなかった。
- ・討論課題の幅が広すぎて話が広がらなかった。例を上げるなど皆が考えやすいものだともっと良かった。
- ・共感できることが多く、時間をもっととってディスカッションしてみたい。

4 講義の感想・意見

- ・子どもが自ら環境に働きかけるよう、発達を促すことが大切だと気づかされた。
- ・共感・受容がその子の自信につながるということを認識した。
- ・発達支援の大切さを感じ、子どもと関わる上での基礎を学ぶことができた。
- ・子どもの目線に立つ・肯定的に関わること、信頼関係の大切さ、子どもの事を理解する大切さを改めて強く感じた。
- ・子どもの変化に気付く大切さ、コミュニケーション、連携の大切さ、注視すべき点など考えさせられた。
- ・肢体不自由児の支援方法について参考になった。
- ・肢体不自由児の支援について、人形を使っての実践などもやってみたい。
- ・発達段階に合わせた支援、関わりなどの実践方法を知りたい。
- ・学習支援・不登校児への支援・感覚統合・言葉の発達・行政の情報を知りたい。
- ・テーマをしぼって、詳しく知れたら良かった。